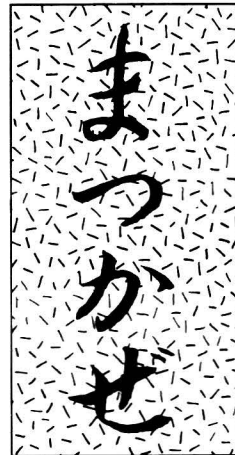


過去、現在、そして…



平和学園小学校校長
酒 井 聡



平和学園小学校
同窓会連絡誌
茅ヶ崎市富士見町5-2
電話 0467 (82) 0093

私は、このところ毎年八月になると、図書館から太平洋戦争に関する本を何冊か借りて読みふける習慣が続いています。

九十二年生まれの私はその行為の中で、自分の児童期の体験をフィード・バックしながら心の中の風化と戦いつつ、度とあのようになんかあつてはならぬという思いをあらたにしています。

その頃の太平洋のかなたから来るものは、B-29であり、グラマンでありました。

学園の場所は海軍の兵舎であり、辻堂の広い砂浜には高射砲陣地があり、辻堂の住人は、平塚の大空襲、グラマンのロケット弾、機

銃掃射になやまされ、私も二度ばかり危ない目に会いました。

しかし、肉体的なつらさは、その当時誰もが体験したことだという思いで片付けようとしても、納得がいかなかったことは、国民学校(小学校)での教育でした。

納得いかなかったなどと今えらそうに言っています。あの教育は、私という一人の落ちこぼれ(落ちこぼし)人間を作ったこと、

そのおもいが残って私は小学校教師の道に入ったということは事実です。

あれから四十五年経過し、昭和がおわり平成に入った現在ですが、なんだか世の中のふん開きがあつたに似て来たなど感じはじめているのは私だけでしょうか。

八月十二日の毎日新聞朝刊に沖繩出身の芥川賞作家人城立裕さんの対談がありました。その中で、「非人間的な管理社会というのは軍隊と同じで、戦争への抵抗力をそぐ恐れがあります。」

「問題はニヒルにとどまらないうちにどうするか、です。」ということばが印象的でした。

たしかに、教育にたずさわる私の目にも、日本全国「右へならえ」で、ある尺度を押しつけられているような気がします。

方、国連で採択された子どもの権利条約が発効することが本決まりとなったそうです。

「子どもを大人の小型ではなく、それ自身独立し、権利を持った主体としてとらえ……」「衣食住は充足し過ぎるくらい充足している。

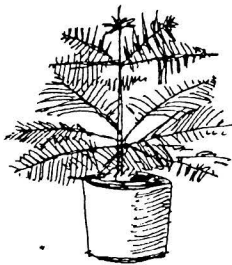
だが、児童福祉関係の国際会議などで、外国の研究者達が日本の子どもの状況を規定することばは『子ども時代を奮われた子ども』だという。」(八月十三日毎日新聞朝刊)

何事にも一斉、画一化が好きな日本人がこのことにどう反応するか興味のあるところだ。

このような時の流れの中にあつて「すべての物を超えてすすむイエスの国」を志向するわが平和学園小学校の存在意義は小さくとも(いや小さいから大きいものであることを改めて確認しております)神からたまわつた一人一人の人格を心から受容することをその出発点としていたいと思っています。

『学園の建学の精神は、キリスト教信仰にもとづき、自由で平和であたたかい愛の学園をきずき、神を信じ、隣人を愛する人、真の平和をつくるまことの人を世に送り出すことである。』

この一字一句を実感をもつてかみしめつつ、これからも努力して行きたいと思っております。



建築について

36回卒 東 安彦

同窓牛のみなさん、こんにちは。

私はこの春から、ひんはんに平和学園に通っています。

かくいう私は昭和三八年度の卒業で、もうすぐ四十台ともお別れという初老(？)の同窓生です。

ということとは、相当な年配者という意識でいるわけですが、何言ってるんだ俺なんかもうすぐ還暦だぞ、とのたまう先輩の怖い顔やそれじやうちのおじいちゃんと同じ年代だ、とつぶやく卒業したばかりの中学生の同窓生の顔も目に浮かんできます。

直接あったこともなく、親子ほど孫ほど歳が離れていても、「同窓生」というその言葉で呼ばれるとき、親しみと懐かしさ、そして言葉ではいいあらわせない

もしかすると、それは『平和学園小学校』の同窓生だからこそなのかもしれませぬ。

緑濃い松林、ときに響く潮騒そしてこの会報にも名づけられた松風、などのすばらしい自然、砂丘のあちこちに点在するまるでジノドや堀辰雄の小説に出てくるような古ぼけた校舎、そして昔のままの呼び名で声を掛けてくれる先生の懐かしい声と笑顔……。

けれども急激な都市化の波、大きな社会の潮流は、いやおうなしに茅ヶ崎の地にも押し寄せています。都市計画道路がキャンパスを横切り、松林とあのテニスコートをつぶしてしま

います。児童の減少傾向は如何と

もしがたく、その対策は国家的課題なのでしょうが、人気絶頂の海部首相といえどもこればかりは即応の妙案はないでしょう。

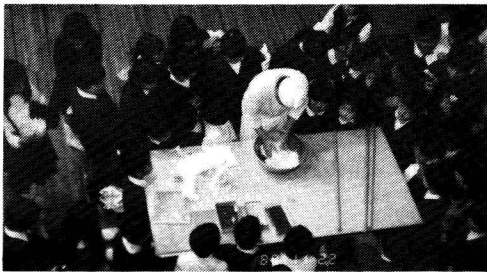
いま平和学園は過渡期に

あります。

同窓牛一人一人の心に刻まれた伝統を受け継ぎつつ、新しい時代を展望し拓く対応策がぜひとも必要です。

学園では賀川先生、村島先生が掲げた創立の原点に立って、真摯な努力と真剣な検討が行われています。私も及ばずながらお手伝いのため、多摩から足を運んでいる次第です。

学園の近況と子どもたちのよひ



平和学園小学校の児童も今現在二四四名です。教師十一名と共に毎日楽しく過ごしています。昨年度は、グレイニアホールと図書館を与えられました。が来年度にむけて、家庭科室図書室が建てられることになりました。設計は二八年度卒三六回生の東安彦さんをお願いいたしました。

卒業生の手によって、小学校の建物が、一つ一つ実現していくのはとても嬉しいことです。



子供達の生活の様子を三枚の写真からみていただけるでしょうか。お正月の書きぞめ大会、自分達で植えてたそばから発展して、保護者のおそばやさんの協力で実演と試食会、全校児童でのにぎやかな楽しい一時でした。

※四月のプレイデーでの保護者の方の綱引も、恒例となりました。

なつかしい 先生方のお便り

大津 雄史先生

昨年の五月に、小学校の同窓会にお招きを受け、久しぶりにお伺いしました。

「グレーニアホール」と

「図書館」が完成しており、何れもユニークですばらしい建造物でした。

過ぎし日に、今はなき礼拝堂や図書室で学ばれた卒業生にとっては感無量のものであったのではないでしょうか。

当日は、一緒に仕事をさせて頂いた野口先生や和田(旧姓武佐)先生、金管バンドの指導者の楠山先生、よく存じ上げている楯岡先生、退職された横山先生、そしてたくさん卒業生の方々にお会いでき、とてもなつかしく思うことでした。

また、酒井校長先生のお

話もうかがうことができ有意義でした。

現在、在校されている児童の皆さんは、「とても幸せだな。」と、しみじみ思いました。

平和学園小学校の増々のご発展を心よりお祈りしております。

花村 清美先生

この原稿の依頼がありました日に、父が亡くなりました。

今年で丁度八才でした。ここの一年余りは、ハーキソン病が悪化し、母も私も父の世話に疲労きみでしたが、こんなにあっさり行ってしまうとは、思いませんでした。

高熱で入院し、一週間余りでした。

静かで、決して声を荒げたりすることのない人でした。

自分から積極的に何かをする、ということのない父に物足りなさを感じたこと

もありました。

しかし葬式の際、牧師が「この人の死に様は、この方の人生そのもののような気がします。」

どんなことにも少しも、さわがず、不平を言わず、神様のされるがままに身をゆだねる、真に受け身の人生でした。」と。

私のやつ当たりにも、母のぐちにも、耐え、写真は、ニコニコと笑っています。

ほんとうのやさしさを教えてくれた父に、心から、感謝する今日この頃です。

村松 潔子先生(昔図書館の高垣先生)

皆さんお元気ですか。今年の夏は本当に暑かったですね。近くに住んでいるのに小学校に新しい図書館が出来たお知らせをいいたいでから平和へ行ってないことを思い出しました。どんな本がどんな風に並んでいるのかなあ。新しい図書館は新しい本ばかりあるのでしょうか。昔の古い本も残っているのかしら。今の小

学校の校舎のある辺りに古い木造の建物があって、前

半分が図書館で後の部屋には卓球台が置いてあった。

三十年以上も昔のことです。毎月PTAからいただく図書費で少しづつ本を買い、

前からあった本といっしょに整理して古い本棚に並べました。ちょうど岩波少年

文庫などときちんとした児童書が出はじめた頃でした。

数少ない蔵書なので、冊、冊がとも大切で生徒達が授業中で静かな時には一人で夢中になって読みました。

くまのプーさんとかメアリー・ポピンズとか名犬ラッシーとか一活字も小さく絵もほとんどない本を一生懸命読む子がだんだんふえて

来て、昼休みや放課後に好きな本の話をしにくる生徒もいましたね。図書館は静

かに本を読む所というより、おしゃべりする所、そして本を借りる所という感じ

でした。こんなお話が好きとかあんな本が読みたいとか……そのおしゃべりを大

事にして本を選んだもので

した。「ねえ先生、何か面白い本さがして」というのもみんなの得意のセリフで、

選んであげた本が「スゴーク面白かった」と次から次へとかりられて行くのが楽しみでした。今本屋さんや

図書館へ行くと、あの頃よりずつとカラフルなビカビカした本がいっぱい並んでいて目を見張ります。でも

こんなに沢山ある中でどうやって一番読みたい本を見つけてられるのかなあとちょっと余分な心配をしたりします。

私は相変わらず東海岸に住んで、二人の子供の母親業はそろそろ卒業できそうです。本を読むボランティアを少しと、去年から万葉集

を読むグループに入っただけ強めています。市の図書館にもよく行きます。見かけたら声をかけて下さいね。



26年卒 水野清子

水野さんから住所の問いあわせがありました。

小山修さん、堀恵子さん、鎌谷洋子さんの3人です。

よろしく願いました。

35年卒 小池 弦

小池さんから尋ね人が入っています。

根本悦子さん

山田徹雄さん の住所がお分かりの方は小池さんか小学校の同窓会へ連絡下さい。

45年卒 鈴木乃里子

毎朝平和学園の生徒さん達とすれ違いながら、自分の小学校、中学校時代を、なつかしく思い出しています。が、なんと、それも、もう「ふた昔前」今だに学生でいるせいか、とてもそんな気がしません。

4月から東京医科歯科大学大学院歯学研究所に入りました。あと4年また学生です。



45年卒 内藤昌延

昨年結婚、今年三月三日日長男誕生お父さんになりました。

46年卒 川原純一

東京医大よりホストンのハーバード大系の眼科研究所へ、二年間の研究留学中、来年の夏頃帰国予定。

48年卒 木内 豊

とても仕事がお忙ししいとお便りでした。

卒業生からの

近況報告たより

54年卒 鈴木一成

六月一日から、四日までの二週間、平和学園の高等学校に教育実習でお世話になりました。久しぶりに母校に帰ることができ、本当に嬉しく思っています。小学校時代いろいろなとお世話になりました先生方ともお会いでき、当時のなつかしい話などもたくさんすることができました。記

念講堂やグラウンドも記憶に残っているものよりずっと小さく感じ雰囲気も大分変わっていました。

今回の実習で、小学校を卒業して以来、はじめて平和学園の朝の礼拝に参加する機会が持てました。小学生時代に使っていた聖書を本棚から引っ張り出して持っていていき、それを礼拝で再び聞いた時は、何ともいえない気持ちでした。大切な箇所には、線が引かれています。あたり、所々に落書きもしてありました。それら一つ一つを見てみると当時の思い出がよみがえってくる様でした。そして何よりも礼拝の中で聖書のことばを聞いた時は、心の中に今でも残っている昔のままの平和学園に出会うことができました。とても感激しました。

あまりきれいな聖書ではありませんが、これから少しずつ大切にしていこうと思っています。そして今回教育実習として受け入れて下さった先生方に大変感謝しています。

平成1年卒 小原三郎

このあいだのクラス会は、なんだかそっけなかったような気がします。二時間くらいでスケートがおわり、そのあとすぐ解散、お母さんの話では、スケートがかわったあとと食事があるらしかったんですけど、その食事はスケートリンクの中のラメンだったのです。交通費もかなりかかったしな（リンクに入る代も高い）もって近所でやればよかったのに。

55年卒 土屋朋子

お返事遅くなってしまつて申し訳ございません。私は今年から仕事をし始めました。

最近特に忙しくて毎日帰りが十時、十一時になってしまふ日が続いています。茅ヶ崎は人好きだけど通うのには不便です。せつかく海が近いのに、太陽の昇っている間は茅ヶ崎にいないし、今日の江ノ島の花火も見れないなあ。何か書いてみようとは思ったのですが、とにかく忙しくて家で寝るだけなので、やっぱり無理でした……と言うお便りがありました。

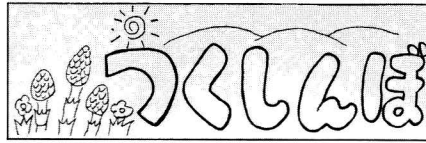
たすねびとといえば、（プランの住所を知っている人は教えてください。）

暑中おみまいなども近くなってきたし、知っておいたほうがいいな。そう言えば、最近森譲が、竹脇析君を、海で助けたという事件があったそうですね。さすが譲!!



学級だより 1年

No.18
1990年6月30日
平和学園小学校
1年担任 森



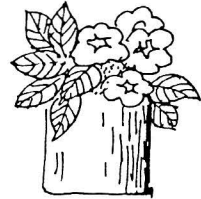
せんせいあのね。
きょうすいえいで、ほかのところがすべりだいちちやったから、すいえいのせんせいが、すべりだいつくってくれた。

(くの)



せんせいあのね。
きょうはうきぶくろなしでおよけました。
クロールで20メートルうきぶくろなしでおよげました。
せおよぎで、はなしたりしてもだいじょうぶだよ。
(かがら)

せんせいあのね。
きのう、ふうるにいきました。
きょう学校からはやしフールまではずでいった。
そこでおよいだ。
クロールをやっておよいだ。
(かつまた)
せんせいあのね。
きのう、がつこうからかえってきて、きにのぼったらすべつきからおつちました。
(かねこ)



学級だより 2年

No.19
1990年7月7日
平和学園小学校
2年担任 田村

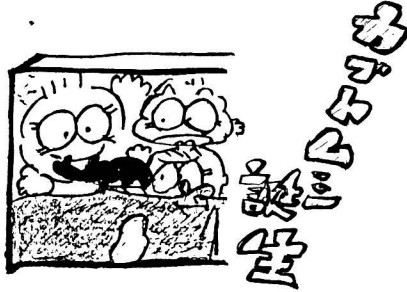


た。虫や金魚などを入れる透明の四角いケースの上、体長が6〜7センチもあるようなみごとなカブト虫が、まだ、背中の部分を白っぽくし、角にチョコレート色の甲をつけて……。

しばらくの時間、何も言わず子供達とケースに頭をくっつけ合ってたのぞき込んでいました。生まれたばかりのカブトムシの体は、光って美しく、新しい生命の輝きにあふれて、いつまで見ているも見あきないそれだけで感動してしまいうようなそんなかんじでした。
このカブト虫は平和の卒業生の虫はかせのおじさんから、子供たちに、16匹幼虫の状態でプレゼントしていただき、理科の時間を中心に観察を続けていたので、今までデパートから買ってきた、育てたことはありませんが、成虫になるまで育ちませんでした。ですから、今回が初めての孵化成功となりました。
子供たちは、さっそく絵を描いたり作文にしたりして記録しました。
そしてまたよく見ると明日にも成虫になるというカブト虫が、このような状態で、角を出していました。

「せんせい、い〜たいへんだ〜たいへんだ〜!」
岩本くんを先頭に、何人かの子供達が、職員室へ走って来たのです。
何ごとかと思つてどうしたの?と聞くと「せんせい、カブトムシになつてる」といふので「ほんとう」と走つていくと、いましたいま

まるで植物の発芽のようなのにびっくりします。
この後15匹がモゾモゾと次々誕生したら、さぞみごとなことだろうと子供たちと楽しみにしています。
☆このあと15匹みんな元気に成虫になりました。この16匹を下さつた虫はかせのおじさんとは32年度卒業の小池淑さんです。卒業生の方のこの様な支えはとても嬉しいことです。



潮馬蚤

No.18
1990年7月7日
平和学園小学校
3年担任 楯岡

学級
だより
3年

わたしの名に比べてみるのもおもしろいものです。
どうか一人ひとりの子どもたちの願いがかないますように。

わたしの名に比べてみるのもおもしろいものです。
どうか一人ひとりの子どもたちの願いがかないますように。

去年の「潮馬蚤」7月7日号と同じヘッドコピーで今年の7月7日号をお届けします。

つて願うことは、なんでもかなえてあげよう(ヨハネ 14:13)

また、少しでも願いに近づけることができますように。

● 森 まや

うちでかっている動物が、まだまだ長生きしますように。

● 村野雄彦

ぼくは、しょうらい虫の学者になっていろいろ実験をしたいです。

● 大泉有加

せいせきが上りますように。

● 伊藤紗祐織

早く顔(アトヒ)がよくなりますように。

● 吉成一太郎

勉強と運動がうまくなりたい。

● 村上理奈

あたらしい自転車がほしい。

● 今井こずえ

さか上がりができますように。

● 大石一暢

しょうらいコソクさんになれますように。
おねがいます。

● 小野木啓史

マラソン大会できろくをぬきたいです。

● 福島朱里

友だちとけんかしても、すくなかなおりにできるよ

● 木本麻衣子

本が100さつ読めますように。

● 石川知子

プールでもっと泳げるよ

● 小川哲史

うちのお母さんが長生きするよ。

● 佐藤雄基

まんがの本がほしい。それと長生きをしたい。

● 金子善明

しん長がのびますように。大人になつたらお金にこ

● 楯岡龍之助

まらないように。

● 菅谷奈巳

外国の人や、いえのそばのお友だちがたくさんで

● 内山雄士郎

べんきょうをがんばりたい。

● 河合邦恵

早く本がたくさん読めるよ。

● 松本恵子

おもちゃが、ふえますように。

● 土井絵美子



おこづかいがふえますように。

● 長谷川 慧

しん長がのびますように。

● 木村麻衣子

頭がよくなりたい。

● 田崎未央

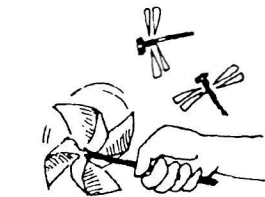
お友だちとけんかしても、すくなかなおりになるよ

● 金本俊伸

ぼくは、しょうらいお父さんの会社の社長になって

● 伊藤万里

・ちよつとした事ですぐ人に手をだしたりがらないよ



理科ニモ
ジャガイモ
収穫



この後、大きなべでゆで、ホカホカのとれたて新ジャガをさっそくみんなでおぼりました。もちろん最高ノの味でした。

そよかぜ

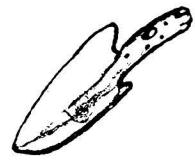
No.13

1990年6月30日
平和学園小学校
4年担任 佐藤

学級
だより
4年

子どもたちが学びの場で、楽しんでいけるのを見る、これほどうれしいことはありません。理科で、国語で……のびのびと活動しています。

(6月21日 柴田 真弓)
先生あのね、今日、理科の4時間目に、おいも(ジャガイモ)ほりをしました。ほとんどの人のなえはかれていたで、みんなそうきたいしていませんでした。ところがどっこいとれた！それほど大きくなかったけれど、ころころあるある。もうあきらめていたけどちやんととれたので、うれしさかものすごく大きくなりました。…それから教室へ入ってジャガイモを洗ってみんなでパンザイをしました。みんなとってもうれしそう顔をしていました。



地元とともに

平和信用組合 スーパーMMC

No.16

1990年6月22日
平和学園小学校
5年担任 増淵

学級
だより
5年

以前、自然教室で子供たちを沢につれて行ったことがある。岩から岩へとびうつたり、流れをせきとめようと

緑の葉っぱが、まぶしくなってくる、水がこいしくなる。清流でハチャハチャしたり、沢の一枚岩でヒチャヒチャはしやぎたくなる。滝のわきを、シャワーライミングなんていうのもいいな。でもそんなことができるのも年に一回。子供たちも水がすきだ。

したり、葉っぱを流して追いかけたり、時間を忘れて、本当の子供らしく、生き生きしていた。引率する方としては、ケガをさせたいいけないと思う。そして、そのときも足をちよつと切った子がいた。でも、わたしが「さあ、そろそろ帰ろうか」と言うと、足をケガした子まで、「ええり、もつといいでしょう」という。遊び道具が何もなくても、彼らはこういうところでもくらでも遊べる。海もいい。菓山の地層見学、真鶴の海浜学習、何回も行ったな。貝を拾い、カニと遊び、魚を追いつめ、こわごわ、アマフラシをさわったりした。茅ヶ崎の海のように、ただ波が寄せるだけの単純な地形の浜でも、子供たちは何時間も遊ぶ。そういう子供たちを見てると、本当は、ファミコンよりも、海や川がすきなのだと思う。

流れている。今ほにごっているが、昔はきれいだっただ。わたしは、その川の小さな船着場で、よくメダカと遊んだ。何十ものメダカが、いつもわたしの歩み出しと反対方向に、一瞬のうちに向きをかえる。川の中は、いつもキラキラしていた。川底は、浅いように見えて、深いことが、たまらなくわくわくした。少し上流で、こうやさんが、よく染物をそよがせていた。わたしのおばさんは、こうやの使用人と結婚した。わたしは、岸辺に立つその二人を、遠くから、ぐらぐら橋と言われた小さな木の橋から、こっそり見たことがある。今、わたしは、水道に浄水器をつけ、冷蔵庫から、おいしい水を出してのむ。なんだかかさげなくなってくる。



